

本物の音楽に触れる演奏会

プロの演奏を聴き、楽器に触れて目を輝かせる児童たち。

6月2日、上川口小学校にて特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング（東京・五嶋みどり理事長）の訪問コンサートが開かれました。同法人は、音楽家との交流や、コンサートを聴く機会の少ない子どもたちのために毎年訪問プログラムを実施しており、同校は昨年度応募し、訪問先に選ばれたものです。



左からバイオリン2人、チェロ、ピオラ。五嶋みどりさん(左から2番目)のバイオリンは、300年以上前に作られたものだそうです。

町内からは、南郷小学校・伊田小学校の児童も参加し、ホールには約60人が集まりました。五嶋さんは、3人の外国人奏者とともに来校。各曲の内容や特徴を説明しながら演奏し、児童らは美しい響きに聴き入っていました。

楽器に触れるコーナーでは、初めて本物の弦楽器に触れた児童らが大興奮。その嬉しそうな姿に奏者らも笑顔になっていました。「バイオリンニストの母が弾いているのを見てやりたいと思った」という五嶋さん。この貴重な出会いと経験が、子どもたちの人生を豊かに彩ってくれることでしょう。



「鉄道事故防止の日」避難訓練



入野駅で下車し、車掌の誘導に従い、1列になって徒歩で避難。

1998年6月11日、西大方―古津賀間で起きた列車衝突事故を受け、土佐くろしお鉄道では毎年その日を「鉄道事故防止の日」と定め、合同訓練を行っています。

今年も、臨時列車を使用し、黒潮町入野駅付近を走行中に地震が発生したと想定。列車を緊急停止した場所が津波の浸水予想区域であるため、入野駅へ運転し、駅から高台の大方高校へ避難しました。

訓練には、鉄道社員と黒潮町職員ら合わせて約40名が参加。講師では、出発の合図が抜けていた、乗客への案内の声が小さい、などの指摘もありましたが、訓練を検証し本番に備えることが必要と再確認しました。

黒潮若手の会が義援金寄付

黒潮町社会福祉協議会の東日本大震災義援金受付窓口にて、5月25日、黒潮若手の会（秋田彰仁代表）が義援金約35万円を寄付しました。同会は、被災者のために自分たちができることをしようと、30個の募金箱を作成し、町内や四万十市内に設置しました。

会員の大工が作った募金箱は、一部透明で中身が見える仕掛け。設置に協力した喫茶店では、客の女性が祈る少女の写真を募金箱のそばに置いて応援してくれました。2カ月余りで約40万円が集まり、義援金の一部は同会と交流がある須崎市の「南地区青壮年の会」を通じ、県内でも被災した須崎市の養殖業者などへ寄付するそうです。



社協関係者と若手の会役員。(右の3人)